

大阪金剛簾（経済産業大臣指定伝統工芸品）

内陣などでかけられている「御簾」。富田林市と河内長野市一带は、すだれの名産地なのをご存知でしょうか。最近はいんテリアなどでも見かけますが、すだれの歴史や文化について「すだれ資料館」の増井良輔さんにお伺いしました。

昭和40年頃、一带のすだれ産業が全盛期を迎え、1985年に「大阪府の伝統工芸品」の指定を受けて、1994年に大阪簾工業協同組合を設立します。1996年には経済産業大臣より「経済産

業大臣指定伝統工芸品」の指定を受けます。

日本では「万葉集」に「簾」という言葉が最初に登場し、平安時代になると物語絵巻などに「御簾」が描かれています。江戸時代になると風合いや涼風・採光効果などで庶民の暮らしにも馴染むようになったそうです。

すだれ資料館では、中国、韓国、キルギス他、歴史的に貴重で精緻なすだれ、文献、製造機械など、すだれ文化の変遷とその可能性を垣間見る展示となっています。ねじりながら編まれた朱色の縦糸が織りなす亀甲模様で代表される工芸品のす



だれは節の間隔が長い「真竹」から作られ、節のところが編んだときに美しい模様をなす高級品。現代でも地元で豊富にある真竹を主に使用しなが

ら全国の竹産地から集めておられます。その工程は材料作り、織り上げ作業、仕上げ（縁・房など）などその中にいくつもの工程があり、熟練工の技が必要で、分業・専門化されていました。伝統的工芸品として存在する一方、日本文化の発信、そして日本や世界の新しいインテリアデザインとして広めていければとのことでした。

寺内町の日常

寺内町にある喫茶店で珈琲を飲んでみると、老若男女ご近所さんがやってくる。マスターも慣れている。「今日は遅かったね」からはじまる世間話。みんな仲が良く、言葉にはあたたかみがある。今はこの人情や風情に惚れて伝統的建物を賃貸する若年層も増えているそう。人と人とのご縁を大切にす富田林寺内町この魅力あふれる町をぜひ訪れてほしい。